

# 各領域の内容等に関する資料

# 第2章の変遷（昭和31年以降）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
<p>第Ⅱ章 幼稚園教育の内容</p>	<p>第2章 内容</p>	<p>第2章 ねらい及び内容</p>	<p>第2章 ねらい及び内容</p>	<p>第2章 ねらい及び内容</p>
<p>幼稚園教育の内容として取り上げられるものは、幼児の生活全般に及ぶ広い範囲のいろいろな経験である。それは第1章で述べた目標を達成するために有効適切な経験でなければならないことはいうまでもない。そのためには、幼児の発達上の特質を考え、目標に照して、適切な経験を選ぶ必要がある。</p> <p>ここでは、さきに述べた五つの目標に従って、その内容を、1. 健康 2. 社会 3. 自然 4. 言語 5. 音楽リズム 6. 絵画製作の六領域に分類した。しかし、幼児の具体的な生活経験は、ほとんど常に、これらいくつかの領域にまたがり、交錯して現れる。したがってこの内容領域の区分は、内容を一応組織的に考え、かつ指導計画を立案するための便宜からしたものである。</p>	<p>健康、社会、自然、言語、音楽リズムおよび絵画製作の各領域に示す事項は、幼稚園教育の目標を達成するために、原則として幼稚園修了までに幼児に指導することが望ましいねらいを示したものである。しかし、それは相互に密接な連絡があり、幼児の具体的、総合的な経験や活動を通して達成されるものである。</p> <p>幼稚園においては、各領域に示す事項によって、全期間を通じて指導しなければならない事項の全体を見通し、望ましい幼児の経験や活動を適切に選択し配列して、調和のとれた指導計画を作成し、これを実施しなければならない。この際、各領域に示す事項については、幼児の年齢の違い、教育期間の相違および地域の実態などを考慮して、その程度を適切に決めなければならない。</p>	<p>この章に示すねらいは幼稚園修了までに育つことが期待される心情、意欲、態度などであり、内容はねらいを達成するために指導する事項である。これらを幼児の発達の側面から、心身の健康に関する領域「健康」、人とのかかわりに関する領域「人間関係」、身近な環境とのかかわりに関する領域「環境」、言葉の獲得に関する領域「言葉」及び感性と表現に関する領域「表現」としてまとめ、示したものである。</p> <p>各領域に示すねらいは幼稚園における生活の全体を通じ幼児が様々な体験を積み重ねる中で相互に関連をもちながら次第に達成に向かうものであること、内容は具体的な活動を通して総合的に指導されるものであることに留意しなければならない。</p>	<p>この章に示すねらいは幼稚園修了までに育つことが期待される生きる力の基礎となる心情、意欲、態度などであり、内容はねらいを達成するために指導する事項である。これらを幼児の発達の側面から、心身の健康に関する領域「健康」、人とのかかわりに関する領域「人間関係」、身近な環境とのかかわりに関する領域「環境」、言葉の獲得に関する領域「言葉」及び感性と表現に関する領域「表現」としてまとめ、示したものである。</p> <p>各領域に示すねらいは幼稚園における生活の全体を通じ、幼児が様々な体験を積み重ねる中で相互に関連をもちながら次第に達成に向かうものであること、内容は幼児が環境にかかわって展開する具体的な活動を通して総合的に指導されるものであることに留意しなければならない。</p>	<p>この章に示すねらいは、幼稚園修了までに育つことが期待される生きる力の基礎となる心情、意欲、態度などであり、内容は、ねらいを達成するために指導する事項である。これらを幼児の発達の側面から、心身の健康に関する領域「健康」、人とのかかわりに関する領域「人間関係」、身近な環境とのかかわりに関する領域「環境」、言葉の獲得に関する領域「言葉」及び感性と表現に関する領域「表現」としてまとめ、示したものである。</p> <p>各領域に示すねらいは、幼稚園における生活の全体を通じ、幼児が様々な体験を積み重ねる中で相互に関連をもちながら次第に達成に向かうものであること、内容は、幼児が環境にかかわって展開する具体的な活動を通して総合的に指導されるものであることに留意しなければならない。</p>

## 第2章の変遷（昭和31年以降）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
<p>ここに注意しなければならないことは、幼稚園教育の内容として上にあげた健康・社会・自然・言語・音楽リズム・絵画製作は、小学校以上の学校における教科とは、その性格を大いに異にするということである。幼稚園の時代は、まだ、教科というようなわくで学習させる段階ではない。むしろこどものしぜんな生活指導の姿で、健康とか社会とか自然、ないしは音楽リズムや絵画製作でねらう内容を身につけさせようとするのである。したがって、小学校の教科指導の計画や方法を、そのまま幼稚園に適用しようとしたら、幼児の教育を誤る結果となる。</p> <p>以下、教育内容の領域区分に従って「幼児の発達上の特質」と、それぞれの内容領域において予想される「望ましい経験」を表示しておく。</p>	<p>また、特に必要な場合には、各領域に示す事項に基づいて適切なねらいをくふうし、それを各領域に加えて指導することができる。しかし、指導する事項をいたずらに多くしたり、程度の高すぎるねらいを達成しようとしたりして、幼児の負担過重とならないようにし、また、その趣旨を逸脱しないように、慎重に配慮する必要がある。なお、幼稚園教育の特質に基づき、各領域は小学校における各教科とその性格が異なるものであることに留意しなければならない。</p>	<p>なお、特に必要な場合には、各領域に示すねらいの趣旨に基づいて適切な具体的な内容を工夫しそれを加えても差し支えないが、その場合にはそれが幼稚園教育の基本を逸脱しないよう慎重に配慮する必要がある。</p>	<p>なお、特に必要な場合には、各領域に示すねらいの趣旨に基づいて適切な、具体的な内容を工夫し、それを加えても差し支えないが、その場合には、それが幼稚園教育の基本を逸脱しないよう慎重に配慮する必要がある。</p>	<p>なお、特に必要な場合には、各領域に示すねらいの趣旨に基づいて適切な、具体的な内容を工夫し、それを加えても差し支えないが、その場合には、それが第1章の第1に示す幼稚園教育の基本を逸脱しないよう慎重に配慮する必要がある。</p>

# (1) 領域「健康」

# 領域「健康」の変遷

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
<p><b>1 健康</b></p> <p><b>(1) 幼児の発達上の特質</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○全身を使う運動が多い。</li><li>○小さい筋肉や関節もしだいに発達してくるが、運動はまだ不器用である。</li><li>○骨がしだいにかたさを増してくる。</li><li>○目と手の協応動作ができるようになる。</li><li>○距離感がうすい。</li><li>○自分で疲労と休養の調節をすることがむずかしい。</li><li>○病気に対する抵抗力が弱い。</li><li>○危険に気づかないで、楽しむことに夢中になる。</li><li>○たべ物の好ききらいをする。</li></ul>	<p><b>健康</b></p>	<p><b>健康</b></p>	<p><b>健康</b></p>	<p><b>健康</b></p>

# 領域「健康」の変遷

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
		<p>〔この領域は、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う観点から示したものである。〕</p> <p><b>1 ねらい</b></p> <p>(1) 明るく伸び伸びと行動し充実感を味わう。</p> <p>(2) 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。</p> <p>(3) 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。</p>	<p>〔健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。〕</p> <p><b>1 ねらい</b></p> <p>(1) 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。</p> <p>(2) 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。</p> <p>(3) 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。</p>	<p>〔健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。〕</p> <p><b>1 ねらい</b></p> <p>(1) 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。(2) 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。</p> <p>(3) 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。</p>

# 領域「健康」の変遷

## (2) 望ましい経験

1. 健康生活のためのよい習慣をつける。

清潔

○皮膚・髪の毛・つめなどをきれいにする。

○仕事や遊びのあと、よごれた手足や顔をきれいにする。

○せっけんや消毒液の使い方を知る。

○歯をみがいたり、うがいをしたりする。

○はなをかむ。

○汗をふく。

○手ぬぐいやハンカチは、きれいなものを使う。

○ちり紙やハンカチを、いつも持っている。

○はな紙や紙くずは、きめられた所に捨てる。

○使いよごした道具は、きれいにしておく。

○水飲場や手洗場などをきれいに使う。

○戸や窓を開閉して換気する。

食事

○食事の前に手を洗う。

○簡単な食事の準備やあとかたづけを手伝う。

○食事の前後、しばらくは静かに休む。

○よい姿勢で食事する。

1 健康な生活に必要な習慣や態度を身につける。

(1)身体、衣服、持ち物、身近な場所などを清潔にする。

(2)不潔なものを口に入れず、ハンカチ、手ぬぐいなどは自分のものを使う。

(3)食事のしかたを身につけ、食べ物の好ききらいをしない。

(4)便所をじょうずに使う。

(5)健康診断、予防接種、病気やけがの治療をいやがらずに受ける。

(6)伝染病やその他の病気について関心をもつ。

(7)適切な服装で遊びや仕事をする。

(8)なるべく戸外で遊ぶ。

(9)姿勢を正しくする。

(10)休息のしかたがわかり、運動や食事のあとは静かに休む。

2 いろいろな運動に興味をもち、進んで行なうようになる。

(1)いろいろな方法で、歩く、走る、とぶなどの運動をして遊ぶ。

(2)いろいろな方法で、投げる、押す、引く、あるいはころがるなどの運動をして遊ぶ。

(3)かけっこ、とびっこ、ならびっこなどをして遊ぶ。

## 2 内容

(1)先生や友達と触れ合い、安定感をもって行動する。

(2)いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。

(3)進んで戸外で遊ぶ。

(4)様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。

(5)健康な生活のリズムを身に付ける。

(6)身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄など生活に必要な活動を自分でする。

(7)幼稚園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整える。

(8)自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。

(9)危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方がわかり、安全に気を付けて行動する。

## 2 内容

(1)先生や友達と触れ合い、安定感をもって行動する。

(2)いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。

(3)進んで戸外で遊ぶ。

(4)様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。

(5)健康な生活のリズムを身に付ける。

(6)身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄など生活に必要な活動を自分でする。

(7)幼稚園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整える。

(8)自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。

(9)危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方がわかり、安全に気を付けて行動する。

## 2 内容

(1)先生や友達と触れ合い、安定感をもって行動する。

(2)いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。

(3)進んで戸外で遊ぶ。

(4)様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。

(5)先生や友達と食べることを楽しむ。

(6)健康な生活のリズムを身に付ける。

(7)身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする。

(8)幼稚園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。

(9)自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。

(10)危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方がわかり、安全に気を付けて行動する。

# 領域「健康」の変遷

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
<p>○おちついてよくかみ, こぼさないで食べる。</p> <p>○食べ物の好ききらいを言わない。</p> <p>○楽しく食事する。</p> <p>排便</p> <p>○なるべくきまった時間に用便する。</p> <p>○便所で排便する。</p> <p>○便所や衣服をよごさないように用便する。</p> <p>○用便後の始末をじょうずにする。</p> <p>○用便のあと, 手を洗う。</p> <p>衣服</p> <p>○できるだけ自分で衣服を着たり脱いだりする。</p> <p>○清潔でさっぱりした衣服を着る。</p> <p>○衣服をきちんと身につける。</p> <p>○衣服を着すぎたり薄着になりすぎたりしない。</p> <p>○適切な服装で仕事や遊びをする。</p> <p>運動</p> <p>○なるべく戸外で遊ぶ。</p> <p>○日光にあたる。</p> <p>○炎天下では帽子をかぶる。</p> <p>○炎天下や寒いところで, 長遊びをしない。</p> <p>休息</p> <p>○疲れたら休む。</p>	<p>(4)鬼遊びなど集団的な遊びをする。</p> <p>(5)すべり台, ぶらんこなどで遊ぶ。</p> <p>(6)ボール, 綱, 箱車などを使って遊ぶ。</p> <p>(7)のびのびとリズムカルに運動する。</p> <p>(8)いろいろな運動器具の使い方を知り, くふうして使い, また, あとかたづけをする。</p> <p>(9)だれとでも仲よくし, きまりを守って遊ぶ。</p> <p><b>3 安全な生活に必要な習慣や態度を身につける。</b></p> <p>(1)けがをしないよう気をつける。</p> <p>(2)安全に気をつけて遊具や用具を使う。</p> <p>(3)危険なものに近寄ったり, 危険な場所で遊んだりしない。</p> <p>(4)交通の規則を守る。</p> <p>(5)災害など非常のときに, 先生のさしずらに従って行動する。</p>			

# 領域「健康」の変遷

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
<p>○運動や食事のあと静かに休む。</p> <p>○楽な姿勢で休む。</p> <p>○休むときは静かにする。</p> <p>○午睡するときは、早く静かになる。</p> <p>○午睡時間中、便所に行かないでもいいようにする。</p> <p>2. いろいろな運動や遊びをする。</p> <p>○元気にかけたり、とんだり、はねたりする。</p> <p>○いろいろな形で歩いたり、走ったり、とんだりする。</p> <p>○すべり台・ぶらんこ・低鉄棒・ジャングルジム・砂遊場・固定円木などで遊ぶ。</p> <p>○箱車などの乗物で遊ぶ。</p> <p>○なわとび・たまなげ・雪遊び・鬼遊びなどをする。</p> <p>○鈴わり・綱引き・たまなげなど、簡単なゲームをする。</p> <p>○かけっこ・まりなげその他いろいろな競争をする。</p> <p>○歌や曲に合わせて律動的に動く。</p> <p>○正しい姿勢で、歩いたり腰掛けたりする。</p> <p>3. 伝染病その他の病気にかからないようにする。</p> <p>○指やおもちゃなどを口に入れない。</p>	<p>上記の指導にあたっては、次のことに留意する必要がある。</p> <p>ア 1に関する事項の指導にあたっては、常に家庭と連絡を密にし、幼児の年齢や発達 の程度に応じて、季節や時期などを考慮し、適切な機会をとらえて健康な生活に必要な基礎的な習慣や態度をくりかえして指導し、しだいに身につけさせるようにすること。さらに、自分の身体をたいせつにし、進んで健康を増進しようとする意欲をもたせ、社会の領域に示す事項の指導などとあわせて、公衆衛生についての関心をもよび起こすように努めること。なお、1の(6)の指導にあたっては、手洗いやうがいなど日常の身近なことを実践させるとともに、視聴覚教材などの利用によって、伝染病やその他の病気の予防のしかたなどについて気づかせるようにすること。</p> <p>イ 2に関する事項の指導にあたっては、幼児の興味や能力に応じ、地域や季節などを考慮して、いろいろな種類の運動をのびのびと積極的に行なわせ、身体諸機能の調和的発達を促すとともに、運動能力を高め、また、社会生活に</p>	<p>3 留意事項</p> <p>上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。</p> <p>(1)心と体の健康は相互に密接な関連があるものであることを踏まえ、幼児が教師や他の幼児との温かい触れ合いの中で自己の存在感や充実感を味わうことなどを基盤として、心と体の健全な発達を促すこと。</p> <p>(2)生活の中で興味や関心、能力に応じて全身を使って様々な活動に取り組むことにより、体を動かすことの楽しさを味わい自分の体を大切にしようとする気持ちが育つようにすること。その際、幼児の生活と遊離した特定の運動に偏った指導を行うことのないようにすること。</p>	<p>3 内容の取扱い</p> <p>上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。</p> <p>(1)心と体の健康は、相互に密接な関連があるものであることを踏まえ、幼児が教師や他の幼児との温かい触れ合いの中で自己の存在感や充実感を味わうことなどを基盤として、しなやかな心と体の発達を促すこと。</p> <p>(2)様々な遊びの中で、幼児が興味や関心、能力に応じて全身を使って活動することにより、体を動かす楽しさを味わい、安全についての構えを身に付け、自分の体を大切にしようとする気持ちが育つようにすること。</p> <p>(3)自然の中で伸び伸びと体を動かして遊ぶことにより、体の諸機能の発達が促されることに留意し、幼児の興味や関心が戸外にも向くようにすること。その際、幼児の動線に配慮した園庭や遊具の配置などを工夫すること。</p> <p>(4)基本的な生活習慣の形成に当たっては、幼児の自</p>	<p>3 内容の取扱い</p> <p>上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。</p> <p>(1)心と体の健康は、相互に密接な関連があるものであることを踏まえ、幼児が教師や他の幼児との温かい触れ合いの中で自己の存在感や充実感を味わうことなどを基盤として、しなやかな心と体の発達を促すこと。特に、十分に体を動かす気持ちよさを体験し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにすること。</p> <p>(2)様々な遊びの中で、幼児が興味や関心、能力に応じて全身を使って活動することにより、体を動かす楽しさを味わい、安全についての構えを身に付け、自分の体を大切にしようとする気持ちが育つようにすること。</p> <p>(3)自然の中で伸び伸びと体を動かして遊ぶことにより、体の諸機能の発達が促されることに留意し、幼児の興味や関心が戸外にも向くようにすること。その際、幼児の動線に配慮し</p>

# 領域「健康」の変遷

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
<p>○ハンカチや歯ブラシなどは、自分のものを使う。</p> <p>○予防注射や身体検査を受ける。</p> <p>○身長・体重測定などに関心をもつ。</p> <p>○ほこりやごみの多い所で遊ばない。</p> <p>○からだのぐあいが悪くなったときは、すぐ教師に知らせ、手当を受ける。</p> <p>4. 設備や用具をたいせつに扱い、じょうずに使う。</p> <p>○運動の設備や用具の使い方を守る。</p> <p>○いろいろな遊具をいためないうように使う。</p> <p>○いろいろな遊具を分け合って使う。</p> <p>○使用した用具や遊具は、きめられたとおりに始末する。</p> <p>5. けがをしないようにする。</p> <p>○危害を与える動物などに近寄らない。</p> <p>○遊び場や遊び方のきまりを守って危険を防ぐ。</p> <p>○ガラスの破片やこわれた道具など危険な物があったら、おとなに知らせる。</p> <p>○はさみやのこぎりなどの危険を伴う用具は、きまりを守って使う。</p>	<p>必要な態度の芽ばえをもつちかうようにすること。</p> <p>ウ 1および2に関する事項の指導にあたっては、幼児の経験や活動がいずれか一方にかたよることのないようにすること。</p> <p>エ 3に関する事項の指導にあたっては、日常生活において適切な機会をとらえてくり返し指導し、危険を避け、安全を守る習慣や態度、特に交通安全の習慣を身につけるようにすること。</p>		<p>立心を育て、幼児が他の幼児とかかわりながら主体的な活動を展開する中で、生活に必要な習慣を身に付けるようにすること。</p>	<p>た園庭や遊具の配置などを工夫すること。</p> <p>(4)健康な心と体を育てるためには食育を通じた望ましい食習慣の形成が大切であることを踏まえ、幼児の食生活の実情に配慮し、和やかな雰囲気の中で教師や他の幼児と食べる喜びや楽しさを味わったり、様々な食べ物への興味や関心をもったりするなどし、進んで食べようとする気持ちが育つようにすること。</p> <p>(5)基本的な生活習慣の形成にあたっては、家庭での生活経験に配慮し、幼児の自立心を育て、幼児が他の幼児とかかわりながら主体的な活動を展開する中で、生活に必要な習慣を身に付けるようにすること。</p>

# 領域「健康」の変遷

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
<ul style="list-style-type: none"><li>○交通のきまりを守って歩く。</li><li>○乗物には、順番を守って乗ったりおりたりする。</li><li>○火事や地震のときは、教師のさしずに従い、静かに早く安全な場所へ移る。</li><li>○きり傷やかすり傷など、けがをしたら、すぐに手当を受ける。</li></ul>				

十分に体を動かす気持ちよさを体験



自ら体を動かそうとする意欲が育つようにする

要領

内取(1) 心と体の健康は、相互に密接な関連があるものであることを踏まえ、幼児が教師や他の幼児との温かい触れ合いの中で自己の存在感や充実感を味わうことなどを基盤として、しなやかな心と体の発達を促すこと。  
特に、十分に体を動かす気持ちよさを体験し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにすること。

## 食に関する活動の充実

内容 ●先生や友達と食べることを楽しむ

内取 ●次のことなどを通じて，進んで食べようとする気持ちが育つようにする

- ・和やかな雰囲気の中で教師や他の幼児と食べる喜びや楽しさを味わう

食べ物を身近に感じ，興味や関心をもち，食べてみたいと思うようになる

- ・様々な食べ物への興味や関心をもちたりする

●食に関する活動の際には，幼児の食生活の実情への配慮が必要

例：家庭での食生活，アレルギーなど

# 平成26年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査（幼児教育関係）

## ◆幼少期の多様な運動経験が体力・運動能力に及ぼす影響

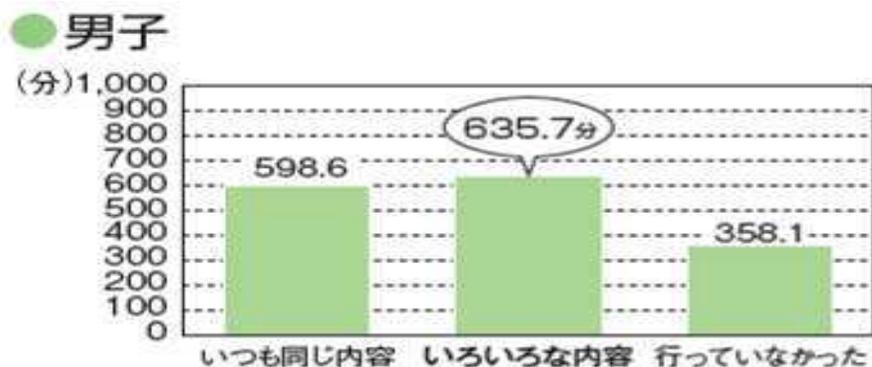
### 今年度の質問紙調査からわかったこと

#### (1) 幼少期の多様な運動経験が体力・運動能力に及ぼす影響

児童に対して、小学校入学前の運動習慣について聞いた質問項目の結果と、現在の体力・運動能力、および運動に対する意識との関係等を示した。

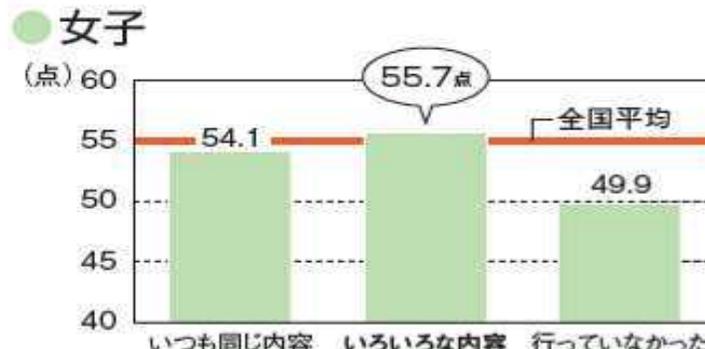
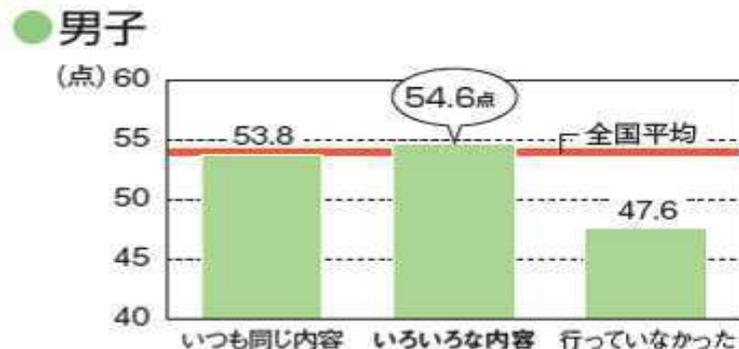
#### 【幼少期の多様な運動経験と、1週間の総運動時間との関係】

小学校入学前にどのように体を動かす遊びをしていたかの回答別に、1週間の運動時間を比較すると、「いろいろな内容」と回答した児童の1週間の総運動時間は、男子で636分、女子で370分と最も長く、次いで男女共に「いつも同じ内容」と回答した児童が、男子で約599分、女子で約312分であった。これに対して、「体を動かす遊びは行っていなかった」と回答した児童が、男子で358分、女子で211分と全国平均を大きく下回っていた。



#### 【幼少期の多様な運動経験と、体力合計点との関係】

同様に体力テストの合計点との関連では、「いろいろな内容」と答えた児童の体力合計点の平均は男子で54.6点、女子で55.7点と最も高く、次いで「いつも同じ内容」と回答した男子で53.8点、女子で54.1点であった。これに対して、「体を動かす遊びは行っていなかった」と回答した児童が、男子で47.6点、女子で49.9点と全国平均を大きく下回っていた。



## (参考) 幼児教育（特に教育内容）にかかると主な政策提言等

中央教育審議会スポーツ・青少年分科会学校安全部会審議のまとめ  
「学校における安全教育の充実について」(平成26年11月19日)

### 安全教育の充実について

●安全教育については、各学校において確実に実施されることが重要であり、研究開発学校等における実践の状況も踏まえつつ、そのための時間の確保、指導内容のまとまりや系統性、中核となる教科等を位置付けることの効果・影響、教材の在り方、学習評価の在り方、指導体制の在り方などの諸課題について、今後、次期の学習指導要領改訂に向けての審議において、教育課程全体の議論の中で検討する。

#### (幼稚園)

幼児の情緒の安定を図り、遊びを通して、状況に応じて機敏に自分の体を動かすことができるようにするとともに、危険な場所や事物などがわかり安全についての理解を深める指導の充実を図る。

## (参考) 幼児教育（特に教育内容）にかかわる主な政策提言等

文部科学省スポーツ・青少年局 今後の学校における食育の在り方に関する有識者会議  
最終報告「今後の学校における食育の在り方について」（平成25年12月）

### 今後の学校における食育の在り方について

学校における食に関する指導方法と指導内容については、次期学習指導要領も視野に入れながら、...児童生徒の発達段階を踏まえた体系的な整理のための具体的な検討を行う必要がある。その際には、就学前や高等学校卒業以降の取組についても考慮する必要がある。

## **(2) 領域「人間関係」**

# 領域「人間関係」の変遷（昭和31、39年は「社会」）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
<p><b>2 社会</b></p> <p><b>(1) 幼児の発達上の特質</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○何でもひとりでやりたがるようになる。</li><li>○自分のものと他人のものの区別が、一応できるようになる。</li><li>○所有欲や独占欲が強い。</li><li>○好きな遊びや作業に熱中する。</li><li>○同じ事がらに対する注意や興味が長続きしない。</li><li>○泣いたり笑ったり、情緒の動揺や変化が激しい。</li><li>○集団の仲間にはいれるようになる。</li><li>○ひとに認められたがる。</li><li>○模倣的な行動が多い。</li><li>○試行錯誤的行動が多い。</li></ul>	<p><b>社会</b></p>	<p><b>人間関係</b></p>	<p><b>人間関係</b></p>	<p><b>人間関係</b></p>

# 領域「人間関係」の変遷（昭和31、39年は「社会」）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
		<p>〔この領域は、他の人々と親しみ支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養う観点から示したものである。〕</p> <p><b>1 ねらい</b></p> <p>(1) 幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。</p> <p>(2) 進んで身近な人とかわり、愛情や信頼感をもつ。</p> <p>(3) 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。</p>	<p>〔他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養う。〕</p> <p><b>1 ねらい</b></p> <p>(1) 幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。</p> <p>(2) 進んで身近な人とかわり、愛情や信頼感をもつ。</p> <p>(3) 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。</p>	<p>〔他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養う。〕</p> <p><b>1 ねらい</b></p> <p>(1) 幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。</p> <p>(2) 身近な人と親しみ、かわりを深め、愛情や信頼感をもつ。</p> <p>(3) 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。</p>

# 領域「人間関係」の変遷（昭和31、39年は「社会」）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
<p><b>(2) 望ましい経験</b></p> <p>1. 自分でできることは自分です。 ○ひとりで衣服を着たり、脱いだり、はき物をはいたりする。 ○仕事や遊びに使うものは、自分で用意をしたりかたづけたりする。</p> <p>2. 仕事をする。 ○仕事を熱心にする。 ○仕事をくふうしてする。 ○仕事を完成する。 ○仕事をやりそこねたら、またやりなおす。 ○進んで仕事を手伝う。</p> <p><b>3. きまりを守る。</b> ○自分の持物、幼稚園の遊具や道具などを、きまった場所に置く。 ○遊びや仕事のきまりを守る。 ○幼稚園に来たとき、帰るときにあいさつをする。 ○へやのなかや廊下のきまりに従う。 ○特別な場所へ行くときは、どこへ行くかを告げ、許しを得る。 ○教師や友だちとの約束を守る。 ○みちくさをしない。 ○きめられたとおり、道路を往復する。</p>	<p><b>1 個人生活における望ましい習慣や態度を身につける。</b> (1)自分でできることは自分です。 (2)明るくのびのびと行動する。 (3)物をたいせつにする。 (4)規律のある生活をする。 (5)自分の思ったことをすなおに正直にいう。 (6)遊びや仕事を熱心にし、最後までやりとおす。 (7)よい悪いの区別ができるようになり、考えて行動する。</p> <p><b>2 社会生活における望ましい習慣や態度を身につける。</b> (1)喜んで登園し、先生に親しみ、幼稚園の生活に慣れる。 (2)友だちと仲よく遊んだり仕事をしたりする。 (3)父母や先生などに言われたことをすなおにきく。 (4)人に親切にし、親切にされたら礼をいう。 (5)人に迷惑をかけたらすなおにあやまり、人のあやまちを許すことができる。 (6)友だちの喜びをいっしょに喜ぶことができる。 (7)先生や友だちと約束したことを守る。 (8)自分の物と人の物の区別ができる。</p>	<p><b>2 内容</b> (1)喜んで登園し、先生や友達に親しむ。 (2)自分で考え、自分で行動する。 (3)自分でできることは自分です。 (4)友達と積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感し合う。 (5)自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。 (6)友達と一緒に遊びや仕事を進める楽しさを知る。 (7)友達とのかかわりの中で言っではいけないことやしてはいけないことがあることに気付く。 (8)友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気付く。 (9)共同の遊具や用具を大切にし、みんなで使う。 (10)自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。</p>	<p><b>2 内容</b> (1)先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。 (2)自分で考え、自分で行動する。 (3)自分でできることは自分です。 (4)友達と積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感し合う。 (5)自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。 (6)友達によさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。 (7)友達と一緒に物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。 (8)よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。 (9)友達とのかかわりを深め、思いやりをもつ。 (10)友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気付き、守ろうとする。 (11)共同の遊具や用具を大切にし、みんなで使う。 (12)高齢者をはじめ地域の人々など自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。</p>	<p><b>2 内容</b> (1)先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。 (2)自分で考え、自分で行動する。 (3)自分でできることは自分です。 (4)いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。 (5)友達と積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感し合う。 (6)自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。 (7)友達によさに気付き、一緒に活動する楽しさを味わう。 (8)友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見いだし、工夫したり、協力したりなどする。 (9)よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。 (10)友達とのかかわりを深め、思いやりをもつ。 (11)友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気付き、守ろうとする。</p>

# 領域「人間関係」の変遷（昭和31、39年は「社会」）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
<p>4. 物をたいせつに使う。 ○ひとの物を使うときは、許しを得る。 ○仕事や遊びの道具を、正しくたいせつに使う。 ○共同の道具や遊具は、みんなで公平に使う。 ○色紙や絵の具など、材料をむだに使わない。 ○物を紛失しないように気をつける。 ○物を紛失したときは、すぐにその旨を届ける。 ○落とし物は、拾ってすぐに届ける。</p> <p>5. 友だちと仲よくしたり、協力したりする。 ○友だちと仲よく遊ぶ。 ○だれとでも仲よくする。 ○友だちがほめられたら、みんなで喜んであげる。 ○困っている友だちを見たら、助けてあげる。 ○親切にしてもらったら「ありがとう」をいう。 ○友だちの仕事や遊びのじゃまをしない。 ○あやまって迷惑をかけたなら、すぐにあやまる。 ○友だちのあやまちを、互に許し合う。</p>	<p>(9)共同の遊具や用具をたいせつにし、ゆずりあって使う。 (10)遊びのきまりを守る。 (11)グループを作って遊びや仕事をする。 (12)学級やグループの中で役割を受け持って仕事をするができる。 (13)身近な公共物をたいせつにする。</p> <p><b>3 身近な社会の事象に興味や関心をもつ。</b> (1)幼稚園や家庭ではみんなが助けあっていることを知り、親しみをもつ。 (2)幼稚園、家庭、近隣などには自分たちのために働いている人がいることを知り、親しみをもつ。 (3)自分たちの生活と特に関係の深いいろいろな公共施設や交通機関などに興味や関心をもつ。 (4)いろいろな人が、いろいろな場所で働いて、人々のために物をつくっていることに気づく。 (5)身近な世の中のできごとに興味や関心をもつ。 (6)幼稚園の行事に喜んで参加する。 (7)幼稚園内外の行事において国旗に親しむ。</p>			<p>(12)共同の遊具や用具を大切にし、みんなで使う。 (13)高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。</p>

# 領域「人間関係」の変遷（昭和31、39年は「社会」）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
<p>○グループに割り当てられた仕事は、みんなで協力する。</p> <p>○仕事や遊びの道具を独占しないで、みんなで順番に使う。</p> <p>○リーダーになったり、従う人になったりする。</p> <p>6. 人々のために働く身近の人々を知り、親しみや感謝の気持ちをもつ。</p> <p>○幼稚園には、園長その他の教師や、働く人のいることを知る。</p> <p>○自分たちは、親や幼稚園の教師をはじめ、多くの働く人々の世話になっていることを知り、感謝の気持ちをもつ。</p> <p>○郵便配達・車掌・巡査・農夫など、身近な働く人々に親しみをもつ。</p> <p>○停車場・郵便局・消防署・工場・商店などを見に行く。</p> <p>○ままごと・乗物ごっこ・売屋ごっこなどのごっこ遊びをする。</p> <p>7. 身近にある道具や機械を見る。</p> <p>○自転車・電車・汽車・自動車・飛行機などを見る。</p> <p>○乗物が人や物を運んでくれることを知る。</p> <p>○建造物やいろいろな道具・機械類に関心を寄せる。</p>	<p>上記の指導にあたっては、次のことに留意する必要がある。</p> <p>ア 1に関する事項の指導にあたっては、特に家庭との連絡を密にし、幼児の年齢や発達に応じて、適切な機会をとらえて、個人生活における基本的な習慣や態度を身につけ、しだいに自主および自律の精神の芽ばえをつちかうようにすること。</p> <p>イ 2に関する事項の指導にあたっては、入園当初においては特に幼稚園に慣れることを中心として指導し、しだいにのびのびと行動できるように導き、さらに集団の中においていろいろな経験や活動をさせて、社会生活に必要な習慣や態度を身につけ、協同の精神の芽ばえをつちかうとともに、教師、父母、兄姉などの目上の人に対する敬愛の念を養うようにすること。</p> <p>ウ 3に関する事項の指導にあたっては、幼児に関係深い人々に対し親しみや感謝の念をもたせるようにし、また、その地域の実態に応じて、幼児に関係深い公共施設や交通機関等に興味や関心をもたせ、それらについての理解の芽ばえをつちかうようにすること。</p>	<p><b>3 留意事項</b></p> <p>上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。</p> <p>(1)教師との信頼関係に支えられて自分自身の生活を確立していくことが人とかかわる基盤となることを考慮し、幼児が自ら周囲に働きかけることにより多様な感情を体験し、試行錯誤しながら自分の力で行うことの充実感を味わうことができるよう、幼児の行動を見守りながら適切な援助を行うようにすること。</p> <p>(2)集団生活の中で十分に他の幼児や身近な人々と触れ合い自分の感情や意志を表現しながら共に楽しみ共感し合う体験を通して、人とかかわることの楽しさや大切さを味わうことができるようにすること。また、生活を通して親の愛情に気付き、親を大切にしようとする気持ちが育つようにすること。</p>	<p><b>3 内容の取扱い</b></p> <p>上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。</p> <p>(1)教師との信頼関係に支えられて自分自身の生活を確立していくことが人とかかわる基盤となることを考慮し、幼児が自ら周囲に働き掛けることにより多様な感情を体験し、試行錯誤しながら自分の力で行うことの充実感を味わうことができるよう、幼児の行動を見守りながら適切な援助を行うようにすること。</p> <p>(2)幼児の主体的な活動は、他の幼児とのかかわりの中で深まり、豊かになるものであり、幼児はその中で互いに必要な存在であることを認識するようになることを踏まえ、一人一人を生かした集団を形成しながら人とかかわる力を育てていくようにすること。</p> <p>(3)道徳性の芽生えを培うにあたっては、基本的な生活習慣の形成を図るとともに、幼児が他の幼児とのかかわりの中で他人の存在に気付き、相手を尊重する</p>	<p><b>3 内容の取扱い</b></p> <p>上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。</p> <p>(1)教師との信頼関係に支えられて自分自身の生活を確立していくことが人とかかわる基盤となることを考慮し、幼児が自ら周囲に働き掛けることにより多様な感情を体験し、試行錯誤しながら自分の力で行うことの充実感を味わうことができるよう、幼児の行動を見守りながら適切な援助を行うようにすること。</p> <p>(2)幼児の主体的な活動は、他の幼児とのかかわりの中で深まり、豊かになるものであり、幼児はその中で互いに必要な存在であることを認識するようになることを踏まえ、一人一人を生かした集団を形成しながら人とかかわる力を育てていくようにすること。特に、集団の生活の中で、幼児が自己を発揮し、教師や他の幼児に認められる体験をし、自信をもって行動できるようにすること。</p>

# 領域「人間関係」の変遷（昭和31、39年は「社会」）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
<p>8. 幼稚園や家庭や近隣で行われる行事に、興味や関心をもつ。</p> <p>○遠足・運動会・発表会・誕生会・ひな祭りなど、幼稚園の行事に喜んで参加する。</p> <p>○近くの小学校で催される運動会などの行事を見に行ったり、参加したりする。</p> <p>○みんなといっしょに国の祝日などを楽しむ。</p>	<p>エ 1, 2および3に関する事項の指導にあたっては、幼児の経験や活動がいずれにもかたよらないようにするとともに、いずれの場合においても道徳性の芽ばえをつちかうようにすること。</p>		<p>気持ちをもって行動できるようにし、また、自然や身近な動植物に親しむことなどを通して豊かな心情が育つようにすること。特に、人に対する信頼感や思いやりの気持ちは、葛藤やつまずきをも体験し、それらを乗り越えることにより次第に芽生えてくることに配慮すること。</p> <p>(4)幼児の生活と関係の深い人々と触れ合い、自分の感情や意志を表現しながら共に楽しみ、共感し合う体験を通して、高齢者をはじめ地域の人々などに親しみをもち、人とかわることの楽しさや人の役に立つ喜びを味わうことができるようにすること。また、生活を通して親の愛情に気付き、親を大切にしようとする気持ちが育つようにすること。</p>	<p>(3)幼児が互いにかかわりを深め、協同して遊ぶようになるため、自ら行動する力を育てるようにするとともに、他の幼児と試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わうことができるようにすること。</p> <p>(4)道徳性の芽生えを培うに当たっては、基本的な生活習慣の形成を図るとともに、幼児が他の幼児とのかかわりの中で他人の存在に気付き、相手を尊重する気持ちをもって行動できるようにし、また、自然や身近な動植物に親しむことなどを通して豊かな心情が育つようにすること。特に、人に対する信頼感や思いやりの気持ちは、葛藤やつまずきをも体験し、それらを乗り越えることにより次第に芽生えてくることに配慮すること。</p>

# 領域「人間関係」の変遷（昭和31、39年は「社会」）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
				<p>(5) 集団の生活を通して、幼児が人とのかかわりを深め、規範意識の芽生えが培われることを考慮し、幼児が教師との信頼関係に支えられて自己を発揮する中で、互いに思いを主張し、折り合いを付ける体験をし、きまりの必要性などに気付き、自分の気持ちを調整する力が育つようにすること。</p> <p>(6) 高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人と触れ合い、自分の感情や意志を表現しながら共に楽しみ、共感し合う体験を通して、これらの人々などに親しみをもち、人とかかわることの楽しさや人の役に立つ喜びを味わうことができるようにすること。また、生活を通して親や祖父母などの家族の愛情に気付き、家族を大切にしようとする気持ちが育つようにすること。</p>

## 協同する経験を重ねること

ねらい(2)身近な人と親しみ、**かかわりを深め**、愛情  
や信頼感をもつ。

内容 ●友達と楽しく活動する中で、  
共通の目的を見いだす

友達と遊ぶ中で、自分  
達で目的を見いだすな  
ど

●友達と工夫したり、協力したりなどする

内取 ●自ら行動する力を育てる

●友達と試行錯誤しながら

活動を展開する楽しさを味わう

●共通の目的が実現する喜びを幼児が味わう

協力する  
いざこざや折り合い  
役割分担 等

### 規範意識の芽生え

互いに思いを主張し，自分の思いが受け入れられず，折り合いをつける体験  
ルールを決めて遊ぶとより楽しく遊べる体験等

体験を重ねながらきまりの必要性に気づき，自分の気持ちを調整する力が育つようにする

#### 要領

内取(5) 集団の生活を通して，幼児が人とのかかわりを深め，規範意識の芽生えが培われることを考慮し，幼児が教師との信頼関係に支えられて自己を発揮する中で，互いに思いを主張し，折り合いをつける体験をし，きまりの必要性などに気づき，自分の気持ちを調整する力が育つようにすること。

# (参考) 幼児教育（特に教育内容）にかかると主な政策提言等

中央教育審議会答申「道徳に係る教育課程の改善等について」（平成26年10月21日）

## その他改善が求められる事項

また、今回の審議では、小・中学校の道徳教育の教育課程を中心に検討を行ったが、**本来、道徳教育は、人の一生涯にわたる人格形成に関わる課題であって、就学前の幼児期、高等学校、特別支援学校などにおける道徳教育についても、一貫した理念に基づき、改善を図っていく必要がある。**

このうち、**特に幼児期の教育については、家庭の役割が特に重要であることに鑑み、その充実を図ることが求められる。**

さらに、**幼稚園や高等学校における道徳教育の充実に関しては、学習指導要領の総則に関わる部分を除き、主に次期全面改定に際し、本格的に検討を行うべき事柄であるが、今回の検討に当たっても様々な意見があった。**

これらの審議の結果についても以下に付記し、各学校における実践や行政における具体的な政策立案、今後の関連事項に関する審議の参考等に供したい。

### (3) 幼稚園、高等学校、特別支援学校における道徳教育の充実

**幼稚園教育要領においては、幼児の道徳性や規範意識の芽生えを培うことが示されている。今後、その充実を図るとともに、例えば、幼稚園における遊びを通じた課題解決型の指導を充実し、そのよさを小学校低学年にも取り入れるなど、幼小接続を円滑化していくことが有効と考えられる。**

### **(3) 領域「環境」**

# 領域「環境」の変遷（昭和31年以降※31、39年は「社会」、「自然」）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
<p><b>社会</b>  <b>(1) 幼児の発達上の特質</b>                      ○何でもひとりでやりたがるようになる。                      ○自分のものと他人のものとの区別が、一応できるようになる。                      ○所有欲や独占欲が強い。                      ○好きな遊びや作業に熱中する。                      ○同じ事がらに対する注意や興味が長続きしない。                      ○泣いたり笑ったり、情緒の動揺や変化が激しい。                      ○集団の仲間にはいれるようになる。                      ○ひとに認められたがる。                      ○模倣的な行動が多い。                      ○試行錯誤的行動が多い</p> <p><b>自然</b>  <b>(1) 幼児の発達上の特質</b>                      ○好奇心に富み、見るもの聞くものに関心を持ち、盛んに質問したがる。                      ○まだ、物を全体としてありのままに見ることはできないで、部分的、自己中心的である。                      ○継続観察は、まだできにくい。                      ○動かないものよりは、動くものにいっそう興味をもつ。                      ○動物や植物などの収集に興味をもつが、それを整理することはむずかしい。                      ○動物や植物の世話をすることを喜ぶが、長期にわたって続けることは困難である。                      ○物の大小・形・数量や方向・位置・速度などに関心をもつようになる。</p>	<p><b>社会</b></p>	<p><b>環境</b></p>	<p><b>環境</b></p>	<p><b>環境</b></p>

# 領域「環境」の変遷（昭和31年以降※31、39年は「社会」、「自然」）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
		<p>〔この領域は、自然や社会の事象などの身近な環境に積極的にかかわる力を育て、生活に取り入れていこうとする態度を養う観点から示したものである。〕</p> <p><b>1 ねらい</b></p> <p>(1) 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。</p> <p>(2) 身近な環境に自分からかわり、それを生活に取り入れ大切にしようとする。</p> <p>(3) 身近な事象を見たり考えたり扱ったりする中で、物の性質や数量などに対する感覚を豊かにする。</p>	<p>〔周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。〕</p> <p><b>1 ねらい</b></p> <p>(1) 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。</p> <p>(2) 身近な環境に自分からかわり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。</p> <p>(3) 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。</p>	<p>〔周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。〕</p> <p><b>1 ねらい</b></p> <p>(1) 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。</p> <p>(2) 身近な環境に自分からかわり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。</p> <p>(3) 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。</p>

# 領域「環境」の変遷（昭和31年以降※31、39年は「社会」、「自然」）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
<p><b>社会</b></p> <p><b>(2) 望ましい経験</b></p> <p>1. 自分でできることは自分です。○ひとりで衣服を着たり、脱いだり、はき物をはいたりする。 ○仕事や遊びに使うものは、自分で用意をしたりかたづけたりする。</p> <p>2. 仕事をする。 ○仕事を熱心にする。 ○仕事をくふうしてする。 ○仕事を完成する。 ○仕事をやりそこねたら、またやりなおす。 ○進んで仕事を手伝う。</p> <p>3. きまりを守る。 ○自分の持物、幼稚園の遊具や道具などを、きまった場所に置く。 ○遊びや仕事のきまりを守る。 ○幼稚園に来たとき、帰るときにあいさつをする。 ○へやのなかや廊下のきまりに従う。 ○特別な場所へ行くときは、どこへ行くかを告げ、許しを得る。</p>	<p><b>社会</b></p> <p><b>1 個人生活における望ましい習慣や態度を身につける。</b></p> <p>(1)自分でできることは自分でする。 (2)明るくのびのびと行動する。 (3)物をたいせつにする。 (4)規律のある生活をする。 (5)自分の思ったことをすなおに正直にいう。 (6)遊びや仕事を熱心にし、最後までやりとおす。 (7)よい悪いの区別ができるようになり、考えて行動する。</p>	<p><b>2 内容</b></p> <p>(1)自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。 (2)季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。 (3)自然などの身近な事象に関心を持ち、取り入れて遊ぶ。 (4)身近な動植物に親しみをもって接し、いたわったり大切にしたりする。 (5)身近な物を大切にする。 (6)身近な物を使って考えたり試したりするなどして遊ぶ。 (7)遊具や用具の仕組みに関心をもつ。 (8)日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ。 (9)生活に関係の深い情報や施設などに関心をもつ。 (10)幼稚園内外の行事において国旗に親しむ。</p>	<p><b>2 内容</b></p> <p>(1)自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。 (2)生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ。 (3)季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。 (4)自然などの身近な事象に関心を持ち、取り入れて遊ぶ。 (5)身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。 (6)身近な物を大切にする。 (7)身近な物や遊具に興味をもってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。 (8)日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ。 (9)日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ。</p>	<p><b>2 内容</b></p> <p>(1)自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。 (2)生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ。 (3)季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。 (4)自然などの身近な事象に関心を持ち、取り入れて遊ぶ。 (5)身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。 (6)身近な物を大切にす る。 (7)身近な物や遊具に興味をもってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。 (8)日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ。 (9)日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ。</p>

# 領域「環境」の変遷（昭和31年以降※31、39年は「社会」、「自然」）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
<p>○教師や友だちとの約束を守る。</p> <p>○みちくさをしない。</p> <p>○きめられたとおり、道路を往復する。</p> <p>4. 物をたいせつに使う。</p> <p>○ひとの物を使うときは、許しを得る。</p> <p>○仕事や遊びの道具を、正しくたいせつに使う。</p> <p>○共同の道具や遊具は、みんなで公平に使う。</p> <p>○色紙や絵の具など、材料をむだに使わない。</p> <p>○物を紛失しないように気をつける。</p> <p>○物を紛失したときは、すぐにその旨を届ける。</p> <p>○落とし物は、拾ってすぐに届ける。</p> <p>5. 友だちと仲よくしたり、協力したりする。</p> <p>○友だちと仲よく遊ぶ。</p> <p>○だれとでも仲よくする。</p> <p>○友だちがほめられたら、みんなで喜んであげる。</p> <p>○困っている友だちを見たら、助けてあげる。</p> <p>○親切にしてもらったら「ありがとう」をいう。</p>	<p><b>2 社会生活における望ましい習慣や態度を身につける。</b></p> <p>(1)喜んで登園し、先生に親しみ、幼稚園の生活に慣れる。</p> <p>(2)友だちと仲よく遊んだり仕事をしたりする。</p> <p>(3)父母や先生などに言われたことをすなおにきく。</p> <p>(4)人に親切にし、親切にされたら礼をいう。</p> <p>(5)人に迷惑をかけたらすなおにあやまり、人のあやまちを許すことができる。</p> <p>(6)友だちの喜びをいっしょに喜ぶことができる。</p> <p>(7)先生や友だちと約束したことを守る。</p> <p>(8)自分の物と人の物の区別ができる。</p> <p>(9)共同の遊具や用具をたいせつにし、ゆずりあって使う。</p> <p>(10)遊びのきまりを守る。</p> <p>(11)グループを作って遊びや仕事をする。</p> <p>(12)学級やグループの中で役割を受け持って仕事をするができる。</p>	<p><b>3 留意事項</b></p> <p>上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。</p> <p>(1)身近な事象や動植物に対する感動を伝え合い共感し合うことなどを通して自分からかかわろうとする意欲を育てるとともに様々なかかわり方を通してそれらに対する親しみや畏敬の念、生命を大切にす気持ち、公共心、探究心などが養われるようにすること。</p> <p>(2)数量などに関しては、日常生活の中で幼児自身の必要感に基づく体験を大切にす、数量などに関する興味や関心、感覚が無理なく養われるようにすること。</p>	<p>(10)生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ。</p> <p>(11)幼稚園内外の行事において国旗に親しむ。</p> <p><b>3 内容の取扱い</b></p> <p>上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。</p> <p>(1)幼児が、遊びの中で周囲の環境とかかわり、次第に周囲の世界に好奇心を抱き、その意味や操作の仕方に関心をもち、物事の法則性に気付き、自分なりに考えることができるようになる過程を大切にすること。</p> <p>(2)幼児期において自然のもつ意味は大きく、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接接触れる体験を通して、幼児の心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われることを踏まえ、幼児が自然とかかわりを深めることができるよう工夫すること。</p>	<p>(10)生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ。</p> <p>(11)幼稚園内外の行事において国旗に親しむ。</p> <p><b>3 内容の取扱い</b></p> <p>上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。</p> <p>(1)幼児が、遊びの中で周囲の環境とかかわり、次第に周囲の世界に好奇心を抱き、その意味や操作の仕方に関心をもち、物事の法則性に気付き、自分なりに考えることができるようになる過程を大切にすること。特に、他の幼児の考えなどに触れ、新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わい、自ら考えようとする気持ちが育つようにすること。</p>

# 領域「環境」の変遷（昭和31年以降※31、39年は「社会」、「自然」）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
<p>○友だちの仕事や遊びのじゃまをしない。</p> <p>○あやまって迷惑をかけたら、すぐにあやまる。</p> <p>○友だちのあやまちを、互に許し合う。</p> <p>○グループに割り当てられた仕事は、みんなで協力する。</p> <p>○仕事や遊びの道具を独占しないで、みんなで順番に使う。</p> <p>○リーダーになったり、従う人になったりする。</p> <p>6. 人々のために働く身近の人々を知り、親しみや感謝の気持ちをもつ。</p> <p>○幼稚園には、園長その他の教師や、働く人のいることを知る。</p> <p>○自分たちは、親や幼稚園の教師をはじめ、多くの働く人々の世話になっていることを知り、感謝の気持ちをもつ。</p> <p>○郵便配達・車掌・巡査・農夫など、身近な働く人々に親しみをもつ。</p> <p>○停車場・郵便局・消防署・工場・商店などを見に行く。</p> <p>○ままごと・乗物ごっこ・売屋ごっこなどのごっこ遊びをする。</p>	<p>(13)身近な公共物をたいせつにする。</p> <p><b>3 身近な社会の事象に興味や関心をもつ。</b></p> <p>(1)幼稚園や家庭ではみんなが助けあっていることを知り、親しみをもつ。</p> <p>(2)幼稚園、家庭、近隣などには自分たちのために働いている人がいることを知り、親しみをもつ。</p> <p>(3)自分たちの生活と特に関係の深いいろいろな公共施設や交通機関などに興味や関心をもつ。</p> <p>(4)いろいろな人が、いろいろな場所で働いて、人々のために物をつくっていることに気づく。</p> <p>(5)身近な世の中のできごとに興味や関心をもつ。</p> <p>(6)幼稚園の行事に喜んで参加する。</p> <p>(7)幼稚園内外の行事において国旗に親しむ。</p> <p>上記の指導にあたっては、次のことに留意する必要がある。</p>		<p>(3)身近な事象や動植物に対する感動を伝え合い、共感し合うことなどを通して自分からかかわろうとする意欲を育てるとともに、様々なかかわり方を通してそれらに対する親しみや畏敬の念、生命を大切にしたいという気持ち、公共心、探究心などが養われるようにすること。</p> <p>(4)数量や文字などに関しては、日常生活の中で幼児自身の必要感に基づく体験を大切に、数量や文字などに関する興味や関心、感覚が養われるようにすること。</p>	<p>(2)幼児期において自然のもつ意味は大きく、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接触れる体験を通して、幼児の心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われることを踏まえ、幼児が自然とのかかわりを深めることができるよう工夫すること。</p> <p>(3)身近な事象や動植物に対する感動を伝え合い、共感し合うことなどを通して自分からかかわろうとする意欲を育てるとともに、様々なかかわり方を通してそれらに対する親しみや畏敬の念、生命を大切にしたいという気持ち、公共心、探究心などが養われるようにすること。</p>

# 領域「環境」の変遷（昭和31年以降※31、39年は「社会」、 「自然」）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
<p>7. 身近にある道具や機械を見る。            ○自転車・電車・汽車・自動車・飛行機などを見る。            ○乗物が人や物を運んでくれることを知る。            ○建造物やいろいろな道具・機械類に関心を寄せる。</p> <p>8. 幼稚園や家庭や近隣で行われる行事に、興味や関心をもつ。            ○遠足・運動会・発表会・誕生会・ひな祭りなど、幼稚園の行事に喜んで参加する。            ○近くの小学校で催される運動会などの行事を見に行ったり、参加したりする。            ○みんなといっしょに国の祝日などを楽しむ。</p>	<p>ア 1に関する事項の指導にあたっては、特に家庭との連絡を密にし、幼児の年齢や発達の程度に応じて、適切な機会をとらえて、個人生活における基本的な習慣や態度を身につけ、しだいに自主および自律の精神の芽ばえをつちかうようにすること。</p> <p>イ 2に関する事項の指導にあたっては、入園当初においては特に幼稚園に慣れることを中心として指導し、しだいにのびのびと行動できるように導き、さらに集団の中においていろいろな経験や活動をさせて、社会生活に必要な習慣や態度を身につけ、協同の精神の芽ばえをつちかうとともに、教師、父母、兄弟などの目上の人に対する敬愛の念を養うようにすること。</p>			<p>(4)数量や文字などに関しては、日常生活の中で幼児自身の必要感に基づく体験を大切に、数量や文字などに関する興味や関心、感覚が養われるようにすること。</p>

# 領域「環境」の変遷（昭和31年以降※31、39年は「社会」、「自然」）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
	<p>ウ 3に関する事項の指導にあたっては、幼児に関係深い人々に対し親しみや感謝の念をもたせるようにし、また、その地域の実態に応じて、幼児に関係深い公共施設や交通機関等に興味や関心をもたせ、それらについての理解の芽ばえをつちかうようにすること。</p> <p>エ 1, 2および3に関する事項の指導にあたっては、幼児の経験や活動がいずれにもかたよらないようにするとともに、いずれの場合においても道徳性の芽ばえをつちかうようにすること。</p>			

# 領域「環境」の変遷（昭和31年以降※31、39年は「社会」、**「自然」**）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
<p><b>自然</b>                      (2)望ましい経験                      1. 身近にあるものを見たり聞いたりする。                      ○花や草や木などを見て話す。                      ○飼育している金魚・小鳥・こん虫・にわとり・うさぎなどを見て話す。                      ○ちょう・とんぼ・ありの様子を見る。                      ○動植物の成長や変化を継続的に見ようとする。                      ○朝日・夕日・月・星などを見る。                      ○雲・雨・雪・にじ・風などに注意を向ける。                      ○山・川・海を見る。                      ○虫や鳥の鳴き声を聞く。                      ○いろいろな音を聞き分ける。                      ○物の遠近・方向・高低・位置・速度などを注意したり、比べたりする。</p>	<p><b>自然</b>                      1 身近な動植物を愛護し、自然に親しむ。                      (1)身近な動植物に愛情をもち、それらをいたわったり、たいせつにしたりする。                      (2)動植物を飼育栽培することを喜ぶ。                      (3)喜んで屋外の自然に接したり、いろいろな自然の事物を利用して遊ぶ。                      (4)山川、気象、天体などの自然の事象におどろきや親しみを感じ、その美しさや大きさなどに気づく。                      2 身近な自然の事象などに興味や関心をもち、自分で見たり考えたり扱ったりしようとする。                      (1)身近な動植物の性質や成長などに興味や関心をもち、                      (2)自然の事象に疑問をいだき、注意して見たりためしたりして、自分で考えようとする。                      (3)季節によって、自然に著しい変化のあることや、人間や動植物の生活に変化のあることに気づく。</p>			

# 領域「環境」の変遷（昭和31年以降※31、39年は「社会」、 「自然」）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
<p>2. 動物や植物の世話をす る。 ○種をまいたり、苗を植えたり、水をやったりする。 ○花壇の草取りを手伝う。 ○おたまじゃくし・金魚・小鳥・虫などをいたわる。 ○動物の親が、子をいたわって育てるところに気づく。 ○動物の食べ物がいろいろ違うことに気づく。 ○木や草花を、むやみに折ったり摘んだりしない。</p> <p>3. 身近な自然の変化や美しさに気づく。 ○四季の変化の様子を見る。 ○日の出と日の入り、日なたと日かげを比べる。 ○暖い日と寒い日、晴れた日と曇りや雨・風の日などを比べる。 ○山・海・川・動植物・天体の美しさを観賞する。 ○おたまじゃくしなどの変化を見たり、絵にかいたりする。 ○晴れの日や雨の日などのしるしをつける。</p>	<p>(4)おもちゃなどを作って遊ぶときなどに、その作り方や遊び方などをくふうする。 (5)身近にある遊具や用具を使うときに、その使い方をくふうする。 (6)日常生活を通して、物の性質の違いや、電気、熱、光、音などの事象に興味や関心をもつ。 (7)身近な乗り物やおもちゃなどについて、その動きやしくみに興味や関心をもつ。</p> <p><b>3 日常生活に適応するために必要な簡単な技能を身につける。</b> (1)日常生活に必要な用具を使うことができる。 (2)日常生活における身近な器械を操作することができる。 (3)器械や用具を正しく扱い、危険を防ぐことができる。</p>			

# 領域「環境」の変遷（昭和31年以降※31、39年は「社会」、「自然」）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
<p>4. いろいろなものを集めて遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○木の葉・木の実・貝がら・小石などを集めて遊ぶ。</li> <li>○いろいろ集めたものを、友だちと見せ合ったり、話し合ったりする。</li> <li>○物の大小・軽重・数量・形などを比べる。</li> <li>○集めたものの展示をする。</li> <li>○集めたもののしまい方を考える。</li> </ul> <p>5. 機械や道具を見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○機関車や自動車などを興味を持って見る。</li> <li>○おもちゃなどの構造に関心を持つ。</li> <li>○木製品、金属製品の区別に気づく。</li> <li>○磁石、虫めがねなどを使って遊ぶ。</li> </ul>	<p>4 数量や図形などについて興味や関心をもつようになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)具体的な事物によって、量の大小を比べる。</li> <li>(2)いくつかの物を分けたり寄せ集めたり、これらを整理したりする。</li> <li>(3)日常生活の中で具体的な事物を簡単な数の範囲で数えたり、順番を言ったりする。</li> <li>(4)長い短い、広い狭い、または速いおそいなどに興味や関心をもつ。</li> <li>(5)物の形について興味や関心をもち、丸や四角などの特徴に気づく。</li> <li>(6)前後、左右、遠近などの位置関係について興味や関心をもつ。</li> <li>(7)日常生活を通して時刻について興味や関心をもつ。</li> </ol> <p>上記の指導にあたっては、次のことに留意する必要がある。</p>			

# 領域「環境」の変遷（昭和31年以降※31、39年は「社会」、 「自然」）

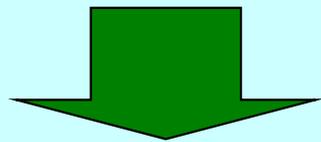
昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
	<p>ア 1に関する事項の指導にあたっては、幼稚園や家庭などで育てている草花や動物の世話を、見たり手伝ったり自分でしたりして、それらをかわいがるようにし、動植物を愛護する態度を養うようにすること。また、できるだけ自然の事象に接する機会を多くし、特に屋外の自然における指導を中心として、自然に親しむ態度や自然に対する感動の芽ばえをつちかうようにすること。</p> <p>イ 2に関する事項の指導にあたっては、たえず適切な機会をとらえて、きわめて簡単な自然科学的事実に気づかせ、それを正しく見たり考えたりしようとする気持ちを育て、できるだけくふうや創意をはたらかせるように導き、幼児の発達に応じた考察力や理解力を養うようにすること。</p>			

# 領域「環境」の変遷（昭和31年以降※31、39年は「社会」、「自然」）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
	<p>ウ 3に関する事項の指導にあたっては、幼児の年齢や発達の程度に応じて、日常生活のなかで必要な簡単な器械や用具などを、適切にかつ安全に操作できるようにすること。</p> <p>エ 4に関する事項の指導にあたっては、幼児の年齢や発達の程度に応じて、数量や図形などに関して基礎となることからの理解に役だつ経験や活動をさせるようにすること。</p> <p>なお、数については、日常生活や遊びのなかで、幼児の年齢や発達の程度に応じて具体的な事物と対応させながら取り扱うこと。また、いたずらに数詞を多く覚えさせたり、多くのものを数えさせたりするようなことは望ましくないこと。</p>			

## 思考力の芽生え

他の幼児の考えに触れ，新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わう



他の幼児のしていることを見たり，考えを聞いたりして，刺激を受け，自分の中に新しい考えが浮かぶ等

自ら考えようとする気持ちが育つようにする

### 要領

内取(1) 幼児が，遊びの中で周囲の環境とかかわり，次第に周囲の世界に好奇心を抱き，その意味や操作の仕方に関心をもち，物事の法則性に気付き，自分なりに考えることができるようになる過程を大切にすること。特に，他の幼児の考えなどに触れ，新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わい自ら考えようとする気持ちが育つようにすること。

## (4) 領域「言葉」

# 領域「言葉」の変遷（昭和31年以降。※31、39年は「言語」）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
<p>4. 言語</p> <p>(1) 幼児の発達上の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○発声諸器官の発達はじゅうぶんでない。</li><li>○幼児語やかたことがとりきれない。</li><li>○場に応じての話し声の大きさの調整ができにくい。</li><li>○俗語や品の悪いことばと、普通のことばとの良否の区別ができにくい。</li><li>○知っている人や友だちとはよく話しても、未知の人がいるとだまりこむことが多い。</li><li>○自分がしたこと、友だちがしたことなど、自分の見たり聞いたりした直接的な経験や行動について発表することを好む。</li><li>○話すことばの省略が多く、そぼくな身振や表情によって、ことばを補う不完全な表現をする。</li><li>○1000語ないし3000語程度の日常語の意味が聞いてわかる。</li><li>○聞く能力の発達程度はまだ低いから、むずかしいことば、長い話、興味のない話、自分に関係のうすい話は聞こうとしない。</li></ul>	言語	言葉	言葉	言葉

# 領域「言葉」の変遷（昭和31年以降※31、39年は「言語」）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
<ul style="list-style-type: none"><li>○大ぜいといっしょに話をきくことはむずかしい。</li><li>○ひとの話を終りまで聞こうとしないことが多い。</li><li>○絵本を見ようとする興味が出てくる。</li><li>○童話や劇などを聞いたり見たりすることを喜ぶようになる。</li></ul>				

# 領域「言葉」の変遷（昭和31年以降※31、39年は「言語」）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
		<p>〔この領域は、経験したことや考えたことなどを話し言葉を使って表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚を養う観点から示したものである。〕</p> <p><b>1 ねらい</b>            (1)自分の気持ちを言葉で表現し、伝え合う喜びを味わう。            (2)人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話そうとする。            (3)日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、想像力を豊かにする。</p>	<p>〔経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。〕</p> <p><b>1 ねらい</b>            (1)自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。            (2)人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。            (3)日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、先生や友達と心を通わせる。</p>	<p>〔経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。〕</p> <p><b>1 ねらい</b>            (1)自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。            (2)人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。            (3)日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、先生や友達と心を通わせる。</p>

# 領域「言葉」の変遷（昭和31年以降※31、39年は「言語」）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
<p><b>(2) 望ましい経験</b></p> <p>1. 話をする。</p> <p>○名まえを呼ばれたり、仕事を言いつけられたとき、返事をする。</p> <p>○簡単な問に答える。</p> <p>○自分の名まえや住所、学級の名、教師の名などをいう。</p> <p>○簡単な日常のあいさつ用語を使う。</p> <p>○きのうあったことや、登園の途中で見たことなどを、みんなの前で話す。</p> <p>○友だちの名を正しく呼ぶ。</p> <p>○友だちといっしょに話し合う。</p> <p>○相手の顔を見ながら話す。</p> <p>○ひとの話が終わってから話す。</p> <p>○ひとから聞いた話を、ほかのひとに話して聞かせる。</p> <p>○ことば遊びをする。</p> <p>○疑問や興味をもつものについて、活発に質問する。</p> <p>○教師の指導(表現意欲を害しない程度)に従い、正しいことばや語調で話す。</p>	<p>1 人のことばや話などを聞いてわかるようになる。</p> <p>(1)先生や友だちの話を親しみをもって聞く。</p> <p>(2)人の話を注意して聞く。</p> <p>(3)簡単なさしずらに従って行動する。</p> <p>(4)友だちといっしょに話を聞く。</p> <p>(5)先生の話す童話を喜んで聞く。</p> <p>2 経験したことや自分の思うことなどを話すことができるようになる。</p> <p>(1)先生や友だちに親しみをもって話す。</p> <p>(2)したいこと、してほしいことをことばで表現する。</p> <p>(3)したこと、見たこと、聞いたこと、感じたことなどを話す。</p> <p>(4)疑問をもったことについて尋ねる。</p> <p>(5)簡単な伝言をする。</p> <p>(6)相手にわかるように話し、また話す態度に気をつける。</p> <p>(7)友だちと話し合う。</p> <p>(8)幼児語、幼児音などを使わないで話す。</p>	<p>2 内容</p> <p>(1)先生や友達の言葉や話に興味や関心を持ち、親しみをもって聞いたり話したりする。</p> <p>(2)したこと、見たこと、聞いたこと、感じたことなどを自分なりに言葉で表現する。</p> <p>(3)したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。</p> <p>(4)人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。</p> <p>(5)生活の中で必要な言葉が分かり使う。</p> <p>(6)親しみをもって日常のあいさつをする。</p> <p>(7)生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。</p> <p>(8)いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。</p> <p>(9)絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き想像をする楽しさを味わう。</p> <p>(10)日常生活に必要な簡単な標識や文字などに関心をもつ。</p>	<p>2 内容</p> <p>(1)先生や友達の言葉や話に興味や関心を持ち、親しみをもって聞いたり、話したりする。</p> <p>(2)したこと、見たこと、聞いたこと、感じたことなどを自分なりに言葉で表現する。</p> <p>(3)したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。</p> <p>(4)人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。</p> <p>(5)生活の中で必要な言葉が分かり、使う。</p> <p>(6)親しみをもって日常のあいさつをする。</p> <p>(7)生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。</p> <p>(8)いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。</p> <p>(9)絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わう。</p> <p>(10)日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。</p>	<p>2 内容</p> <p>(1)先生や友達の言葉や話に興味や関心を持ち、親しみをもって聞いたり、話したりする。</p> <p>(2)したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。</p> <p>(3)したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。</p> <p>(4)人の話を注意して聞き、相手に分かるように話す。</p> <p>(5)生活の中で必要な言葉が分かり、使う。</p> <p>(6)親しみをもって日常のあいさつをする。</p> <p>(7)生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。</p> <p>(8)いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。</p> <p>(9)絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わう。</p> <p>(10)日常生活の中で、文字などで伝える楽しさを味わう。</p>

# 領域「言葉」の変遷（昭和31年以降※31、39年は「言語」）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
<p>2. 話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教師や友だちの話を聞いたり、友だちどうしの話合いを聞く。</li> <li>○ラジオや教師の童話などを喜んで聞く。</li> <li>○多くの友だちといっしょに聞こうとする。</li> <li>○話をする人のほうへ向いて聞く。</li> <li>○いたずらや私語をしないで、静かに聞く。</li> <li>○幼児語・方言・なまりや下品なことばと正常なことばとの区別をだんだんに聞き分ける。</li> </ul> <p>3. 絵本・紙しばい・劇・幻燈・映画などを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○絵本を喜んで見る。</li> <li>○絵本について、教師や友だちと話し合う。</li> <li>○紙しばいや人形しばいをしたり、見たりする。</li> <li>○劇や幻燈・映画などを見る。</li> <li>○劇遊びをして、自分の受け持つせりふをいう。</li> <li>○多くの友だちといっしょに、劇や映画を静かに見る。</li> </ul>	<p>3 日常生活に必要なことばが正しく使えるようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)名まえを呼ばれたり、仕事を言いつけられたとき、返事をする。</li> <li>(2)簡単な日常のあいさつができる。</li> <li>(3)自分や友だち、先生や幼稚園などの名まえが言える。</li> <li>(4)身近な事象の名まえが言える。</li> <li>(5)遊びその他の生活に必要なことばが使える。</li> <li>(6)日常生活に必要な簡単な標識や記号などがわかる。</li> </ul> <p>4 絵本、紙しばいなどに親しみ、想像力を豊かにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)絵本、紙しばい、放送などを喜んで見たり聞いたりする。</li> <li>(2)絵本、紙しばい、放送などを見たり聞いたりして、その内容や筋がわかるようになる。</li> </ul>			

# 領域「言葉」の変遷（昭和31年以降※31、39年は「言語」）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
<p>○紙しばい・人形しばい・劇・幻燈・映画などを見たあとで、感じたことを発表する。</p> <p>4. 数量や形、位置や速度などの概要を表わす簡単な日常用語を使う。</p> <p>○グループの友だちの人数を数える。</p> <p>○ひとつ・ふたつと、一番目・二番目を使い分ける。</p> <p>○日常経験する事物について、数・長さ・広さ・高さ・重さ・形などを表わす簡単な日常用語を使って話す。(いくつ・なんにん・なんびき・ながい・みじかい・ひろい・せまい・たかい・ひくい・おもい・かるい・まるい・しかくなど)</p> <p>○遠近・方向・位置・速度などを表わす簡単な日常用語を使って話す。(とおい・ちかい・むこうへ・こちらへ・うえに・したに・まんなかに・まえに・あとに・はやい・おそいなど)</p>	<p>(3)見たこと、聞いたこと、感じたことなどを紙しばいや劇的な活動などで表現する。</p>			

# 領域「言葉」の変遷（昭和31年以降※31、39年は「言語」）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
	<p>上記の指導にあたっては、次のことに留意する必要がある。</p> <p>ア 1に関する事項の指導にあたっては、適切な機会をとらえて身近な人のことばに親しみをもちながら聞き、しだいに友だちといっしょに童話や人の話を注意して聞くような態度を養い、幼児の発達の程度に応じて、ことばの意味や内容を正しくはあくできるようにすること。</p> <p>イ 2に関する事項の指導にあたっては、身近な人に親しみをもって話しかけたり、尋ねたり、人に伝言をしたりできるようにするとともに、しだいに自分の話す態度に気をつけて、経験したことや、自分の思うことなどをはっきりと話すことができるようにすること。</p> <p>ウ 3に関する事項の指導にあたっては、幼児の年齢や発達の程度に応じて、日常生活に必要なことばに慣れさせ、正しいことばで表現しようとする意欲を目ざめさせ、しだいに正しい言語習慣を身に</p>	<p><b>3 留意事項</b></p> <p>上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。</p> <p>(1) 教師や他の幼児とのかかわりの中で互いに自分の感情や考えを伝え合う喜びを十分に味わうとともに、日常生活の中での出来事、絵本や物語などに数多く出会い豊かなイメージをもつことができるようにすること。この場合、教師の使う言葉の影響が大きいことに留意すること。</p> <p>(2) 文字に関する系統的な指導は小学校から行われるものであるため、幼稚園においては直接取り上げて指導するのではなく個々の幼児の文字に対する興味や関心、感覚が無理なく養われるようにすること。</p>	<p><b>3 内容の取扱い</b></p> <p>上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。</p> <p>(1) 言葉は、身近な人に親しみをもって接し、自分の感情や意志などを伝え、それに相手が応答し、その言葉を聞くことを通して次第に獲得されていくものであることを考慮して、幼児が教師や他の幼児とかわるにより心を動かすような体験をし、言葉を交わす喜びを味わえるようにすること。</p> <p>(2) 絵本や物語などで、その内容と自分の経験とを結び付けたり、想像を巡らせたりする楽しみを十分に味わうことによって、次第に豊かなイメージをもち、言葉に対する感覚が養われるようにすること。</p> <p>(3) 幼児が日常生活の中で、文字などを使いながら思ったことや考えたことを伝える喜びや楽しさを味わい、文字に対する興味や関心をもつようにすること。</p>	<p><b>3 内容の取扱い</b></p> <p>上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。</p> <p>(1) 言葉は、身近な人に親しみをもって接し、自分の感情や意志などを伝え、それに相手が応答し、その言葉を聞くことを通して次第に獲得されていくものであることを考慮して、幼児が教師や他の幼児とかわるにより心を動かすような体験をし、言葉を交わす喜びを味わえるようにすること。</p> <p>(2) 幼児が自分の思いを言葉で伝えるとともに、教師や他の幼児などの話を興味をもって注意して聞くことを通して次第に話を理解するようになっていき、言葉による伝え合いができるようにすること。</p> <p>(3) 絵本や物語などで、その内容と自分の経験とを結び付けたり、想像を巡らせたりするなど、楽しみを十分に味わうことによって、次第に豊かなイメージをもち、言葉に対する感覚が養われるようにすること。</p>

# 領域「言葉」の変遷（昭和31年以降※31、39年は「言語」）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
	<p>つけるようにし、さらに日常生活に必要な簡単な標識や記号などに慣れさせ、文字への興味や関心をも育てるようにすること。なお、幼児のことばの指導は、聞くこと、話すことを中心として行ない、文字については、幼児の年齢や発達の程度に応じて、日常生活経験のなかでせんにわかる程度にすることが望ましいこと。</p> <p>エ 2および3に関する事項の指導にあたっては、教師は常に個々の幼児のことばにじゅうぶん注意し、適切な機会をとらえて、ことばで表現する意欲を高めるとともに、相手のことばをよく聞き取る態度を養うようにすること。</p> <p>オ 4に関する事項の指導にあたっては、絵本および紙しばい、スライド、放送などの視聴覚教材を精選し、喜んで見たり聞いたりするような態度を養うとともに、幼児の経験を広め、豊かな情操を養うようにすること。</p>			<p>(4) 幼児が日常生活の中で、文字などを使いながら思ったことや考えたことを伝える喜びや楽しさを味わい、文字に対する興味や関心をもつようにすること。</p>

## 言葉による伝え合い

伝え合いには二つの要素が必要

- 自分の思いを言葉で伝えること
- 相手の話を興味をもって注意して聞き、次第に理解するようになること

### 要領

内取(2) 幼児が自分の思いを言葉で伝えるとともに、教師や他の幼児などの話を興味をもって注意して聞くことを通して次第に話を理解するようになっていき、言葉による伝え合いができるようにすること。

## **(5) 領域「表現」**

# 領域「表現」の変遷（※31、39年は「音楽リズム」「絵画製作」）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
<p><b>音楽リズム</b></p> <p>(1) 幼児の発達上の特質</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○節のくり返しを喜ぶ。</li> <li>○簡単な歌や曲を覚える。</li> <li>○みんなといっしょに歌えるようになる。</li> <li>○短い節を即興的に作って、歌うようになる。</li> <li>○みんなといっしょに、音楽を静かに聞けるようになる。</li> <li>○親しみのある楽器の音を聞き分ける。</li> <li>○音の高低・強弱・曲の早さや拍子などがわかるようになる。</li> <li>○日常生活において、耳に触れる音楽的な音やリズムに気づくようになる。</li> <li>○曲を聞いて、楽しさ、活発さ、静かさ、優美さなどの感じがわかるようになる。</li> <li>○簡単な楽器を使うことができるようになる。</li> <li>○身体的なリズムを通して、周囲の音やリズムを模倣的に表現したり、自分の感じたこと、考えたことなどを創造的に表現したりする。</li> </ul>	<p><b>音楽リズム</b></p>	<p><b>表現</b></p> <p>〔この領域は、豊かな感性を育て、感じたことや考えたことを表現する意欲を養い、創造性を豊かにする観点から示したものである。〕</p> <p>1 ねらい</p> <p>(1)いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。</p> <p>(2)感じたことや考えたことを様々な方法で表現しようとする。</p> <p>(3)生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。</p>	<p><b>表現</b></p> <p>〔感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。〕</p> <p>1 ねらい</p> <p>(1)いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。</p> <p>(2)感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。</p> <p>(3)生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。</p>	<p><b>表現</b></p> <p>〔感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。〕</p> <p>1 ねらい</p> <p>(1)いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。</p> <p>(2)感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。</p> <p>(3)生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。</p>

# 領域「表現」の変遷（※31、39年は「音楽リズム」「絵画製作」）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
<p><b>絵画製作</b></p> <p>(1) 幼児の発達上の特質</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○絵をかいたり、物を作ったりすることを喜ぶ。</li> <li>○客観的な物の大きさの割合などにかかわらないで、かいたり作ったりする。</li> <li>○絵をかいたり、物を作ったりしているとき、その絵や物のなかに自分がはいり込んでしまう傾向がある。</li> <li>○手と目との協応動作による細かい仕事は、まだ困難である。</li> <li>○できあがった結果よりは、かくことや作ること自体に、強い関心や興味を持つ。</li> <li>○表現の方法や技術にとらわれることなく、自分の思っていることを率直に表現する。</li> <li>○比較的単純な形や色彩、その調和などがわかるようになる。</li> <li>○できたものを批判的に見る力は、まだ発達しない。</li> <li>○飾りつけすることを喜ぶ。</li> <li>○材料や道具の使い方が、まだふじゅうぶんである。</li> </ul>	<p><b>絵画製作</b></p>			

# 領域「表現」の変遷（※31、39年は「音楽リズム」「絵画製作」）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
<p><b>音楽リズム</b>  <b>(2) 望ましい経験</b>            1. 歌を歌う。            ○ひとりで喜んで歌う。            ○学級全体や小さなグループにはいって、みんなといっしょに楽しく歌う。            ○自分の座席で、あるいはみんなの前で、ひとりで歌う。            ○すわって歌ったり、立って歌ったりする。            ○手を打ったり、歩いたりしながら歌う。            ○歌いよい姿勢で歌う。            ○はっきりしたことばで歌う。            ○すなおな声で歌う。            ○音程やリズムに気をつけて歌う。            ○よい歌をたくさん覚える。            ○歌遊びをする。            ○いろいろな楽器に合わせて歌う。            ○音楽的な短い節を、即興的に作って歌う。            2. 歌曲を聞く。            ○教師や友だちが歌うのを静かに聞く。            ○蓄音機やラジオの歌を喜んで聞く。</p>	<p><b>音楽リズム</b>  <b>1 のびのびと歌ったり、楽器をひいたりして表現の喜びを味わう。</b>            (1)いろいろな歌を歌うことを楽しむ。            (2)みんなといっしょに喜んで歌い、ひとりでも歌える。            (3)すなおな声、はっきりしたことばで音程やリズムに気をつけて歌う。            (4)カスタネット、タンブリン、その他の楽器に親しむ。            (5)曲の速度や強弱に気をつけて楽器をひく。            (6)みんなといっしょに喜んで楽器をひく。            (7)役割を分担したり、交替したりなどして、楽器をひく。            (8)楽器をたいせつに扱う。  <b>2 のびのびと動きのリズムを楽しみ、表現の喜びを味わう。</b>            (1)のびのびと歩いたり、走ったり、とんだりなどして、リズムカルな動きを楽しむ。</p>	<p><b>2 内容</b>            (1)生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり楽しんだりする。            (2)生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。            (3)様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。            (4)感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり自由にかいたりつくったりする。            (5)いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。            (6)音楽に親しみ、歌を歌ったり簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わう。            (7)かいたりつくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり飾ったりする。            (8)自分のイメージを動きや言葉などで表現し、演じて遊ぶ楽しさを味わう。</p>	<p><b>2 内容</b>            (1)生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、楽しんだりする。            (2)生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。            (3)様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。            (4)感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりする。            (5)いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。            (6)音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わう。            (7)かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりする。            (8)自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりする楽しさを味わう。</p>	<p><b>2 内容</b>            (1)生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。            (2)生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。            (3)様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。            (4)感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。            (5)いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。            (6)音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。            (7)かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。</p>

# 領域「表現」の変遷（※31、39年は「音楽リズム」「絵画製作」）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
<p>○友だちが出る演奏会や音楽会を楽しんで聞く。</p> <p>○いろいろなよい音楽をたくさん聞く。</p> <p>○ひとが歌うのを、気をつけて聞く。</p> <p>3. 楽器をひく。</p> <p>○喜んで楽器をひく。</p> <p>○カステネット・タンブリン・たいこなど、いろいろなリズム楽器を使う。</p> <p>○歌や行進にあわせて、創作的にリズム楽器をひく。</p> <p>○汽車の音や動物のなき声などをまねて、楽器をひく。</p> <p>○役割を分担したり、交代したりして楽器を使う。</p> <p>○指揮者の合図に従って楽器をひく。</p> <p>○いつも使うリズム楽器の名まえや使い方を知る。</p> <p>○楽器をたいせつに使う。</p> <p>4. 動きのリズムで表現する。</p> <p>○曲に合わせて歩いたり、かけたりする。</p> <p>○動物や乗物などの動きをまねて、身体の動きをする。</p>	<p>(2)手を打ったり、楽器をひいたりしながら、リズムカルな動きをする。</p> <p>(3)曲に合わせて歩いたり、走ったり、とんだりなどする。</p> <p>(4)歌や曲をからだの動きで表現する。</p> <p>(5)動物や乗り物などの動きをまねて、からだで表現する。</p> <p>(6)リズムカルな集団遊びを楽しむ。</p> <p>(7)友だちのリズムカルな動きを見て楽しむ。</p> <p><b>3 音楽に親しみ、聞くことに興味をもつ。</b></p> <p>(1)みんなといっしょに喜んで音楽を聞く。</p> <p>(2)静かに音楽を聞く。</p> <p>(3)いろいろのすぐれた音楽に親しむ。</p> <p>(4)友だちの歌や演奏などを聞く。</p> <p>(5)音や曲の感じがわかる。</p> <p>(6)日常生活において音楽に親しむ。</p>			<p>(8)自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。</p>

# 領域「表現」の変遷（※31、39年は「音楽リズム」「絵画製作」）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
<p>○楽器の音に反応して、リズム的な動きをする。</p> <p>○曲や歌に合わせて、自由にリズム的な動きをする。</p> <p>○自分の感じたこと、考えたことを、そのまま動きのリズムで表現する。</p>	<p>4 感じたこと、考えたことなどを音や動きに表現しようとする。</p> <p>(1)短い旋律を即興的に歌う。</p> <p>(2)知っている旋律に自由にことばをつけて歌う。</p> <p>(3)楽器を感じたままひく。</p> <p>(4)感じたこと、考えたことを、自由にからだで表現する。</p> <p>(5)友だちといっしょに、感じたこと考えたことをくふうして歌や楽器やかからだで表現する。</p> <p>上記の指導にあたっては、次のことに留意する必要がある。</p> <p>ア 1に関する事項の指導にあたっては、幼児の年齢や発達の程度に応じて無理のないように、のびのびと楽しんで歌ったり、楽器をひいたりさせ、しだいに音楽についての基礎的な技能や感覚を養うようにすること。</p>			

# 領域「表現」の変遷（※31、39年は「音楽リズム」「絵画製作」）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
	<p>なお、歌の指導については、幼児が親しみやすく、歌いやすい歌を取り上げ、歌うことの喜びを味わわせながら、しだいに発声、音程などにも注意して歌うようにさせること。また、楽器の指導については、リズム楽器を主体として楽器を自由にひかせ、それらの楽器に親しませ、しだいに幼児の年齢や発達の程度に応じて、基礎的なひき方の指導を加えたり、可能な場合には簡易な分担奏を楽しませたりすること。</p> <p>イ 2に関する事項の指導にあたっては、幼児の年齢や発達の程度に応じたさまざまな表現活動をさせるようにし、からだをのびのびとリズムカルに動かすことを楽しませるようにすること。また、集団的な遊びのなかでリズムカルなものを適当に加えるようにすること。</p>	<p><b>3 留意事項</b></p> <p>上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。</p> <p>(1)豊かな感性は、日常生活の中で美しいもの、優れたもの、心に残るような出来事などに会い、そこから得た感動を他の幼児や教師と共有し様々に表現することなどを通して養われるようにすること。</p> <p>(2)生活経験や発達に応じ、自ら様々な表現を楽しむ表現することができるような材料や用具などを適切に整えること。</p> <p>(3)幼児が自分の気持ちや考えを素朴に表現することを大切に、生活と遊離した特定の技能を身に付けさせるための偏った指導を行うことのないようにすること。</p>	<p><b>3 内容の取扱い</b></p> <p>上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。</p> <p>(1)豊かな感性は、自然などの身近な環境と十分にかかわる中で美しいもの、優れたもの、心を動かす出来事などに会い、そこから得た感動を他の幼児や教師と共有し、様々に表現することなどを通して養われるようにすること。</p> <p>(2)幼児の自己表現は素朴な形で行われることが多いので、教師はそのような表現を受容し、幼児自身の表現しようとする意欲を受け止めて、幼児が生活の中で幼児らしい様々な表現を楽しむことができるようにすること。</p> <p>(3)生活経験や発達に応じ、自ら様々な表現を楽しみ、表現する意欲を十分に発揮させることができるような遊具や用具などを整え、自己表現を楽しめるように工夫すること。</p>	<p><b>3 内容の取扱い</b></p> <p>上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。</p> <p>(1)豊かな感性は、自然などの身近な環境と十分にかかわる中で美しいもの、優れたもの、心を動かす出来事などに会い、そこから得た感動を他の幼児や教師と共有し、様々に表現することなどを通して養われるようにすること。</p> <p>(2)幼児の自己表現は素朴な形で行われることが多いので、教師はそのような表現を受容し、幼児自身の表現しようとする意欲を受け止めて、幼児が生活の中で幼児らしい様々な表現を楽しむことができるようにすること。</p> <p>(3)生活経験や発達に応じ、自ら様々な表現を楽しみ、表現する意欲を十分に発揮させることができるように、遊具や用具などを整えたり、他の幼児の表</p>

# 領域「表現」の変遷（※31、39年は「音楽リズム」「絵画製作」）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
	<p>ウ 3に関する事項の指導にあたっては、幼児の年齢や発達の程度などを考慮して、できるだけすぐれた音楽に接する機会を多くし、しだいに音楽に親しませるようにすること。</p> <p>エ 4に関する事項の指導にあたっては、幼児の年齢や発達の程度を考慮して、幼児の気持ちや考えを自由に表現させ、創造的な活動を楽しませて、創造的な表現への意欲を高めるようにすること。</p> <p>オ 1, 2, 3および4の事項の指導にあたっては、いずれにもかたよることなく、種々の経験や活動をできるだけ総合的に行なわせて、情操を豊かにし、生活にうるおいをもたせるように常に配慮すること。</p>			<p>現に触れられるよう配慮したりし、表現する過程を大切に自己表現を楽しめるように工夫すること。</p>

# 領域「表現」の変遷（※31、39年は「音楽リズム」「絵画製作」）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
<p><b>絵画製作</b></p> <p><b>(2) 望ましい経験</b></p> <p>1. 絵をかいたり，物を作ったりする。</p> <p>○自由なのびのびした気持ちで，絵をかいたり，物を作ったりする。</p> <p>○園内外の日常生活，身近に見聞するもの，自分が経験したさまざまなことを絵や物に表現する。</p> <p>○ごっこ遊びや劇遊びに使うものを，かいたり作ったりする。</p> <p>○自分で考えたことや感じたことを，絵や物に作って表現する。</p> <p>○砂遊場で，自由な立体表現をする。</p> <p>○クレヨン・絵の具・紙・粘土・砂・木片・布きれなど，必要な材料を使って，絵をかいたり物を作ったりする。</p> <p>○材料をじょうずに使う。</p> <p>○筆・画板・粘土板・はさみ・かなづちなど，絵をかいたり物を作ったりするために必要な諸道具をじょうずに使う。</p>	<p><b>絵画製作</b></p> <p><b>1 のびのびと絵をかいたり，ものを作ったりして，表現の喜びを味わう。</b></p> <p>(1)喜んで自由に絵をかいたり，ものを作ったりする。</p> <p>(2)身近にある材料で思いのままに表現する。</p> <p>(3)見たり聞いたりしたことなどを絵にかいたり，ものに作ったりする。</p> <p>(4)かいたり作ったりしたものを使って遊ぶ。</p> <p>(5)みんなといつしよに絵をかいたり，ものを作ったりする。</p> <p><b>2 感じたこと，考えたことなどをくふうして表現する。</b></p> <p>(1)感じたこと，考えたことなどをくふうして，絵にかいたり，ものに作ったり，飾ったりする。</p> <p>(2)身近な生活に使う簡単なものを作る。</p> <p>(3)ごっこや劇的な活動などに使うものを作る。</p>			

# 領域「表現」の変遷（※31、39年は「音楽リズム」「絵画製作」）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
<p>○材料や道具を準備したり、あと始末したりする。</p> <p>○何人かで、一つのをかいたり作ったりする。</p> <p>2. 形や色を知る。</p> <p>○木の葉・木の実・花などを集めて、整理したりきれいに並べたりする。</p> <p>○四角・丸・三角などを、自由にかいたり作ったりする。</p> <p>○色や線でいろいろな模様を作る。</p> <p>○色紙や布きれを切ったり、ちぎったりして、自分の好きな形や物を作ってはりつける。</p> <p>○美しい絵・形・色などを見て、調和した美しさを味わう。</p> <p>○しろ・くろ・あか・ちゃ・きいろ・だいたい・みどり・あお・むらさきなどの色を知る。</p> <p>3. 美しい絵や物を見る。</p> <p>○なるべく多く、美しい絵や製作物・花や景色などを見る。</p> <p>○いろいろな絵や物を見て、その美しさについて話し合う。</p> <p>○教師といっしょに、保育室や廊下などを花や絵で飾る。</p> <p>○人の作品をだいにする。</p>	<p>(4)いろいろな色や形に興味や関心を持ち、それらを集めて並べたり、組み合わせたりする。</p> <p>(5)いろいろな色や形を使ってさまざまな表現をする。</p> <p><b>3 いろいろな材料や用具を使う。</b></p> <p>(1)いろいろな材料に親しみ、それを適切に使う。</p> <p>(2)砂、積み木などを使って、いろいろなものを作る。</p> <p>(3)いろいろな用具をじょうずに使う。</p> <p>(4)材料や用具の準備やあとかたづけをする。</p> <p><b>4 美しいものに興味や関心をもつ。</b></p> <p>(1)自分や友だちの作品を見たり、それについて話し合ったりする。</p> <p>(2)身近にある美しいものを見て喜び、作品などをたいせつにする。</p> <p>(3)身近な環境を美しくすることに興味や関心をもつ。</p>			

# 領域「表現」の変遷（※31、39年は「音楽リズム」「絵画製作」）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
	<p>上記の指導にあたっては、次のことに留意する必要がある。</p> <p>ア 1に関する事項の指導にあたっては、幼児の年齢や発達の程度に応じて、のびのびとした気持ちで思いのままに、現実的なもの空想的なものを絵にかいたり、ものに作ったりさせ、表現意欲をじゅうぶん満足させ、その喜びを味わわせるようにすること。</p> <p>イ 2に関する事項の指導にあたっては、幼児の生活や遊びのなかで、絵をかいたり、使うものを作ったり、色や形などを組み合わせる模様を作ったりなどさせ、飾ろうとする欲求を満たし、くふうする態度や構成する力の芽ばえをつちかうようにすること。</p>			

# 領域「表現」の変遷（※31、39年は「音楽リズム」「絵画製作」）

昭和31年	昭和39年	平成元年	平成10年	平成20年
	<p>ウ 3に関する事項の指導にあたっては、1および2に関する事項と関連をもたせて指導し、各種の材料や用具の扱いに慣れさせるとともに、特に安全に留意すること。</p> <p>エ 4に関する事項の指導にあたっては、日常生活のなかでつとめて美しいものに接する機会を多くし、身近な環境を美しくすることに興味や関心をもたせるようにし、美的な情操の芽ばえをつちかうようにすること。</p>			

## 表現する過程を大切にして自己表現が楽しめるように工夫

- 遊具や用具を整える
- 他の幼児の表現に触れられるよう配慮

他の幼児と一緒に表現活動をしたり、他の幼児の表現を見たり聞いたりして、刺激を受けて、自分の表現がより豊かになる

### 要領

内取(3) 生活経験や発達に応じ、自ら様々な表現を楽しみ、表現する意欲を十分に発揮させることができるように、遊具や用具などを整えたり、他の幼児の表現に触れられるよう配慮したりし、表現する過程を大切にして自己表現を楽しめるように工夫すること。